

日本家禽学会誌

第50巻 第J2号 (2013年10月)

目次

研究報告

- J45 絶滅危惧日本鶏品種「龍神地鶏」の飼育状況およびその形態学的・繁殖学的特徴
岡 孝夫・藤原美華・福島 学・豊後貴嗣・都築政起

WPS ジャーナル抄録

J51-J55

総説

有精卵を貯卵することによる卵および胚に対する負の影響および負の影響を最小化するための孵化場経営

J.S.R. Rocha, N.C. Baiao, V.M. Barbosa, M.A. Pompeu, M.N.S. Fernandes, L.J.C. Lara,
C.F.Q. Matias and J.V.M.S.P. Batista

W.P.S.J. 69 (1) : 35-55. 2013.

飼料添加物としてのウリカーゼに対する卵黄抗体が家禽の窒素排泄を削減する可能性

W.K. Kim, P.H. Patterson, J.C. Rodriguez-Lecompte and S.C. Ricke

W.P.S.J. 69 (1) : 45-56. 2013.

ニワトリのヒートストレスとアスコルビン酸（ビタミンC）添加の効果

Z. Abidin and A. Khatoon

W.P.S.J. 69 (1) : 135-152. 2013.

トルコの家畜資源：ハトの分類と繁殖

O. Yilmaz, T. Savas, M. Ertugrul and R.T. Wilson

W.P.S.J. 69 (2) : 265-278. 2013.

J56 家禽資源保有機関の事業内容のご紹介

J62 2013年度秋季大会演題

J64 学会記事

J73 項目及び人名索引

J75 50巻総目次

Japanese Journal of Poultry Science
Vol.50 No. J2, October 2013

Contents

Full Paper

Morphological and Reproductive Characteristics of the Ryujin-Jidori, an Endangered Chicken Breed and Their Implications for Breed Conservation

Takao Oka, Mika Fujihara, Manabu Fukushima, Takashi Bungo and Masaoki Tsudzuki

Japanese Abstracts of World's Poultry Science Journal Papers

Paper Titles of 2013 JPSA Autumn Meeting

Official Information of JPSA

Subject Index

Author Index

Contents of Vol.50(2013)

(研究論文)

絶滅危惧日本鶏品種「龍神地鶏」の飼育状況およびその形態学的・繁殖学的特徴

岡 孝夫^{1,2}・藤原美華³・福島 学³・豊後貴嗣^{1,2}・都築政起^{1,2}

¹ 広島大学大学院生物圏科学研究科, 東広島市鏡山 739-8528

² 広島大学日本鶏資源開発プロジェクト研究センター, 東広島市鏡山 739-8528

³ 和歌山県畜産試験場養鶏研究所, 日高郡日高川町 644-1111

龍神地鶏(リュウジンジドリ)は, 和歌山県田辺市(旧龍神村)を原産地とし, 同市を中心に飼育されている日本鶏の一品種である。本品種は少数の個体が愛好家を中心に飼育されているに過ぎず, その絶滅が懸念されている。また, 本品種には既に遺伝的多様性の低下も報告されており, 早急な保護・増殖が必要と考えられる。本研究では, 龍神地鶏の飼育状況, 形態学的特徴ならびに繁殖性を明らかにすることを目的とした。2012年4月現在の原産地周辺における本品種の成鶏飼育羽数は68羽(雄27, 雌41)であった。本品種の羽装は, 基本的には雛および成体ともに赤笹(野生型)類似のものであった。雛の頭部および背部には野生型と同様の縦縞が存在したが, 全体的着色は野生型のそれよりも暗色であった。また, 頸部横側部に黒色領域をもつ点が野生型雛とは大きく異なっていた。雄成鶏は頸羽および蓑羽の羽軸に沿って黒色領域を有した。また, 特に頸羽では, この黒色領域に加え, 羽毛先端部の両側に黒色部を有した。雌成鶏では背, 胸, 横腹, 翼の羽毛に覆輪様の模様(黒色)が認められた。受精率は約83%, 孵化率は約72%であった。体重増加をゴンペルツ曲線に当てはめたとき, 極大値は雄で980g, 雌で854gであった。性成熟には, 雄で18~24週を, 雌で26~38週を要し, 産卵率(41~50週)は約10~50%であった。育成率は5週齢時で約70%, 30週齢時で約41%であった。現時点における龍神地鶏の個体数は少ないものの, その繁殖性能は比較的良好であるため, その性能を利用して, 本品種の増殖を早急に行なうことが肝要であると考えられた。

キーワード: 龍神地鶏, 遺伝資源, 羽装, 繁殖性能, 保全